



## 子どもは風の子

校長 岡田 優子

立春を過ぎ、春が待ち遠しい季節ですが、今年の2月は強い寒波に見舞われ、この伏見の地にも何日も雪が降り積もりました。また、朝、可児川の表面に氷が張っているのを見かけ、かなりの冷え込みに驚きました。川に氷が張るなんて、私には初めての経験でした。

その日は子どもたちが安全に登校できるよう、我々職員は早めに出勤し、融雪剤をまいたり、雪掻きをしたりしていました。長靴にぶ厚いジャンパーに手袋、カイロも何枚も貼って、戦闘態勢で寒波に挑みます。学校西側と東側の横断歩道とその周り、校庭入り口と児童玄関周り、保護者の駐車場があり、結構雪掻きが大変でしたが、工事業者の方々も手伝ってくださり、何とか子どもたちが登校するまでにきれいにすることができました。

さて、子どもたちといえば、どうやら登校中に雪でひとしきり遊んできたらしく、どの子も手に雪玉をもっていました。中には、大きな雪玉を抱えている子も…。校庭にたっぷりとある雪を見て歓声をあげ、そのまま雪合戦や雪だるま作りへ。チャイムがなっても、なかなか校舎に入らず夢中になって遊んでいました。

数日間雪が降ったりやんだり、運動場も雪がとけてドロドロになっても、みんな外に出てきて、校庭にわずかに残っている雪を見つけては、遊んでいます。さすが「子どもは風の子」だなと感じました。私たち大人にとっては、寒波はやっかいなものですが、子ども達はこの寒波を大いに楽しんでます。雪が降っていても、風が強くても、運動場は子ども達でいっぱいになります。鬼ごっこをする子、ドッジボールをする子、縄跳びをする子など…。今は工事中で運動場が狭いのですが、そんなこと気にせず、子ども達は走り回っています。季節を全身で受け止め感じながら、子どもの時期しかできない貴重な遊びという体験を、今子どもたちはしているのです。

遊びの中で体を動かし運動をすることで、体幹が鍛えられ、様々な運動能力が培われ、子どもたちの大切な体を作ります。運動することで脳が活性化され、集中力や判断力等を高めることになり、学力向上につながるとも言われています。また、遊びの中で人との関わり方も学んでいきます。

思いっきり体を動かし、笑顔で遊んでいる子どもたちを見ていると、自然と笑みがこぼれ、心の中でつぶやきます。大いに遊べ、風の子、伏見っ子！と。



## 授業参観 ありがとうございます！

ちょうど寒波のその週に、今年度最後の授業参観がありました。ぬかるんだ運動場で、雪が降る中、多くの保護者の皆様が、来てくださいました。どのクラスも、1年間の学習のまとめやできるように発表したことを発表する授業でした。緊張しながらも、堂々と発表する子、少し恥ずかしそうに発表する子等、一人一人発表の内容やその様相は違いますが、どの子も頑張ってきたことをプレゼンや資料にまとめ、表現したり、実際にやってみたりする経験を通して、自分の成長を実感することができたのではないのでしょうか。また、仲間と一緒にその発表の準備をする様子も本当に楽しそうでした。

今年度も残りあと1か月をきりましたが、まだまだ最後まで成長のチャンスがあります。子どもたちに寄り添い、更なる成長をサポートしていきます。